



全国棚田(千枚田)連絡協議会

# 棚田ライクテラス

第43号 2006.9.30 (季刊・年4回発行)

発行／全国棚田(千枚田)連絡協議会

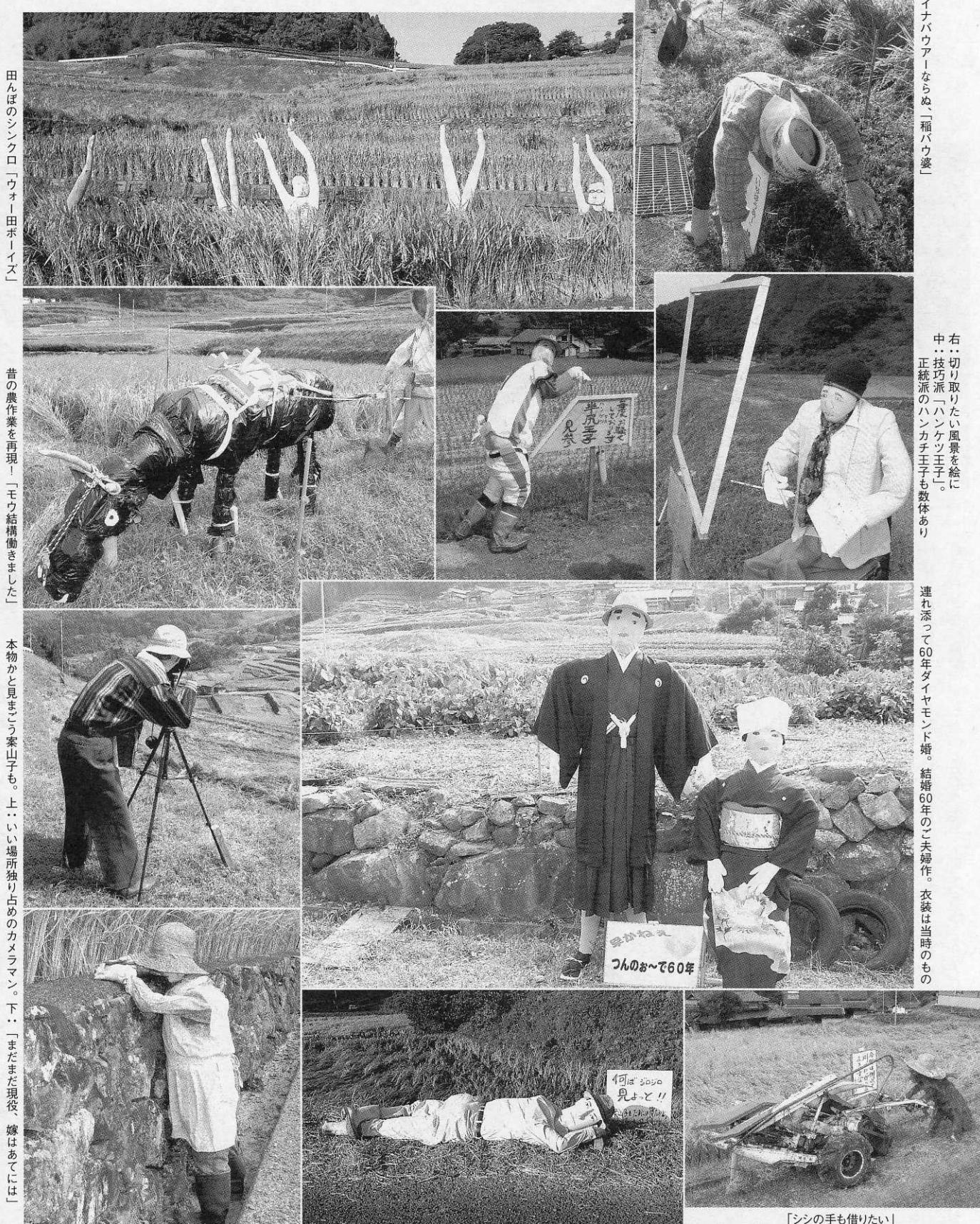
編集／ふるきやらネットワーク

〒169-0073 東京都新宿区百人町1-23-29-202

TEL 03-5389-9937/FAX 03-5389-0078

<http://www.yukidaruma.or.jp/tanada/>

長崎県波佐見町第7回鬼木棚田まつり（9/23開催）で展示された案山子たち。約80組100体。まつりには約4500名の来場者があり、その後も案山子目当てに多くの人が訪れている。展示は10月9日まで。



案山子もたま～には寝たかと(寝たいんだ)

「シシの手も借りたい」

写真：鬼木棚田協議会

波佐見町HP内のフォトニュースにも掲載中

特集

# わがムラ自慢! 棚田でがんばる若手農家

棚田地域でがんばっている若手農家を紹介します。なかには、若手の兼業農家が集まって結成したグループもあります。がんばっている若手農家とみなさんもつながっていきませんか？ 棚田保全にも、営農にも前向きなみなさんです。



自分で食べるものは、  
自分で作りたい

私が就農した茂木町は、町の7割が森林ということも自然豊かなところです。入郷地区(いとう)の石畑(いはたけ)の棚田に代表されるような小さく、不整形な谷津田(やつだ)と呼ばれる田んぼが点在しています。

私が農業を始めたのは、「自分で食べるものは、自分で作りたい！」という思いだけでした。その頃は、新潟県佐渡市で公立の図書館の管理人をしながら、少しの田畠を作っていましたが、もつと本格

した。

的に農業に取り組みたいと思い、就農先を探し始めました。しかし、私の実家は宇都宮市で、農家ではなかつたため、農業がやりたくてもできないという状況で

「**村田** 努さん 44

茂木ゆうきの会の仲間と  
さて、この町ではもう一つ、うわ  
ことがありました。

それは、同じ有機農業に取り組む仲間達との出会いです。町では、ここ数年で増えてきている有機農業者をグループ化していたのです。

「茂木ゆうきの会」は、現在、10人しか会員がいませんが、会議には全員参加し、毎回2時間以上にわたる熱い討論が行なわれ、情報交換や技術研修、道の駅での即売会などに取り組んでいます。

今は、稻作で有機認証を取得することもできましたし、ブルーベリーや野菜も作って道の駅もてぎの直売所や茨城県鯉沢学園の直売所で販売するようになります

たようです。（笑）さっそく聞を案内していただきながら、その家を見せていただきました。壁や床など、手直しが必要な箇所もかなりありましたが、全て自分で直し、平成17年3月に妻と子供3人を連れて移住しました。

穀物を経営の中心と決めていた私が借りた田んぼは、何年も耕作放棄されていたこともあり、小さな機械1台での復旧は大変でしたが、初年度から黒米とコシヒカリを3反5畝の田に植えることができました。

が借りた田んぼは、何年も耕作放棄されていたこともあり、小さな機械1台での復旧は大変でしたが、初年度から黒米とコシヒカリを3反5畝の田に植えることができました。私は、有機農業しか知りませんがこれで十分だと思っています。なぜなら、農薬・化学肥料は少なからず「毒」なわけで、できるだけ毒を撒き散らさない農業がしたいと思って

栃木県茂木町

村田

つとむ  
努さん 44歳

# 清子さん

45  
歳

# 岡山県美咲町(旧中央町)

# 宮尾廣実さん

27歳

ひろみ

## 「大坪和西の棚田」のなかで生まれ育った27歳!

27歳、家族で農業を営む

岡山県美咲町(旧中央町)には、日本の棚田百選の一つ「大坪和西の棚田」があります。ここは、大きな谷一帯にぐるりと360度、すり鉢状の棚田が開かれています。総面積42ha、850枚の眺めは壯観で、その美しさは多くの人を惹きつけています。

ここ「大坪和西の棚田」のなかで生まれ育った宮尾廣実さんをご紹介します。1979年生まれの27歳。2001年、22歳のときに家へ戻り、たばこ栽培を中心、親子3代で農業を営んでいます。

「たばこは、じいちゃんの代ではじめたんですけど、子どもの頃、夏休みに手伝いさせられて、『海にも行けん!絶対せん!』と思うとつたんです。じやけど、みんなががんばっているのを見てきたからでしょかね。たばこはたいへんでも安定しとるし、ほかにもおもしろいことができそうじゃったし。『やっていいけるんじゃないかな』って考えて」

### 棚田での挑戦!

「棚田だからこそ、考えられることをやつてみたいのです。写真を撮りに来る人は多いんです。でも、そこで終わっている。今年から親父たちは、わざわざ1万円の参加料を取って、草取り等の農作業に参加してくれる人を募集したんですよ。お

者その後継者クラブがあり、その仲間が「布

5反つくっています。田んぼは、棚田百選のなかに2町あります。父は52歳。母は48歳。あ、父も母もここでは若手ですね。ええ、専業農家で20代は僕だけです。大坪和西は高齢化が進んでいますから、うちもめずらしい方です」

「いまは父が中心となり、たばこを5町の栽培方法を教えてくれて、『棚田でやつてみれば』って勧めてくれて」

地元の農業高校を卒業後、岡山県農業大学校に進学。卒業後、国際農業者交流協会の研修に参加し、アメリカで2年、

「綿じやけん、自然と消えてなくなるんですね。手間がかかるのは、張るとき。だからこそ、棚田とか小さい田んぼに向

aなのに仲間4~5人で半日がかり。だからこそ、棚田とか小さい田んぼに向

は本気でがんばりようんです。募集30人のところ、応募が40人超えて、遠方からも参加してくれて……」



3世代、家族みんなと家の庭で。写真提供:美咲町役場

10aを借りて、仲間と一緒に僕なりの米づくりをはじめました。せっかく棚田があるんじやん、無農薬の米づくりに挑戦してみようと。実は、町内に若手農業者その後継者クラブがあり、その仲間が「布

土産にお米とピオーネ付きで。親父たち注目されている存在ですよ。

### 棚田だからこそ

「棚田だからこそ、考えられることをやつてみたいのです。写真を撮りに来る人は多いんです。でも、そこで終わっている。今年から親父たちは、わざわざ1万円の参加料を取って、草取り等の農作業に参

加してくれる人を募集したんですよ。お

また、宮尾さんは、平成17年度岡山県青年農業者大会で、「棚田を生かした安心・安全な米づくりへのとりくみ」が評価され、「岡山県農業協同組合中央会長賞」を受賞。県内でも若手農家のホープとして

# 佐賀県有田町(旧西有田町)

前田裕男さん  
かつかつゆきさん  
55歳

## — 専業農家と兼業農家。うち2人が自慢です！ —

### 専業農家の前田裕男さん

私たちの町は、平成18年3月に旧有田町と旧西有田町が合併し、焼き物と農業をキーワードに新しい町づくりに取り組み始めています。

この棚田の土地で専業農家として頑張つておられる前田裕男さん(55歳)は、耕作面積270aで、水稻、花卉、イチゴなどを奥さんとお母さんの3人で栽培しておられます。前田さんは、以前からそばや大豆によるオーナー制に取り組み、最近は棚田米の栽培から収穫までを都市民と一緒に作付けられています。特に

県の特別栽培米にはいち早く取り組まれ、イチゴにも取り入れておられます。

前田さんは、「棚田の不便なところで更に特別栽培を行うことは並大抵のことではあります。でもここには、他にはないすばらしい環境があります。水田環境調査で特Aになる水質の良さがあります。

この良さを元に、今は子供達にすばらしい環境の中で米作りを体験させたり、食育の一環として幼稚園児との泥んこ遊びを通じた食の大切さを伝えていく事を行っています」と、地道ではありますが、少しずつその輪を広げていこうとされています。

### 棚田オーナー制度導入 池田勝幸さん

次に、今年で10年目を迎える棚田オーナー制をいち早く取り入れた、岳信太郎棚田会の代表池田勝幸さん(51歳)は、水稻1haを栽培する兼業農家で、地域の若手リーダー的存在です。現在オーナーは約60人で田植えから稲刈り脱穀、年末には餅つきでの交流を地元の有志と取り組んでおられます。

最近は、マンネリ化によるオーナー



岳信太郎棚田会の池田勝幸さん

一数の減少が、活動に少なからず影響が出でてきていることに苦慮されており、今は原点に立ち返り、オーナーに喜ばれるこの地区ならではの取り組みを模索されているところです。

兼業農家でありながら直接支払制度の集落代表も頑張つておられる池田さんは、「兼業農家なので土日しか取り組みができないが、この地域の棚田を守るために頑張って生きたい」と秋の棚田を背に取材に応じていただきました。

(有田町農林課 山口政幸 記・写真)

島根県邑南町  
(旧羽須美村)  
おうなんちょう

## あさぎり会

### — 若手の兼業農家が

#### 病害虫防除作業受託。

#### 田植え・稻刈りも

##### やる気のある6戸で

あさぎり会は、10年ほど前に気のあつた6戸の兼業農家が、遊び心で農外収入を高めようと榎、ツルウメモドキの栽培を始めたグループです。その後、榎、ツルウメモドキの栽培はうまくいかず、種大根の栽培等を行ひながらわいわいがやがやとやってきました。

4年ほど前から、メンバー所有の動力噴霧器を使い棚田である上田・平佐地域の稲の病害虫防除作業受託をはじめました。地域でも高齢化が進み、稻作もままならない状況にあり、扶助的な役割が果たせないかとのメンバーの声がきっかけでした。メンバーが所有している農機具を使って、田植え、稻刈りの受託も僅かですが、行いました。

農外収入の向上目的に集まつた仲間ですが、いつの間にか棚田地域の集落営農の担い手となりつつあるようです。防除の受託面積も年々増加傾向にあり、こちらの業務の方が本番になってきているよ

# 新潟県柏崎市(旧高柳町)

# 門出棚田愛農会

かど いで

あいのうかい

うな状況です。

あさぎり会のある上田は邑南町の羽須美地城(旧羽須美村)で、合併後、職場の通勤距離が長くなつたメンバーが多く、平日の夕方の作業ができなくなり、今後の活動が危ぶまれている一面もあります。

集落内の棚田の危機  
新潟県柏崎市高柳町には全国棚田百選の棚田が3箇所あり、その一つに門出集落「大開棚田」が選ばれています。また、高柳町19全集落が中山間地域等直接支払い対象地区でもあります。

23~58歳 平均年齢44歳)を立ち上げ、スタートしました。

数年間耕作放棄地の状態であったため、田んぼには雑木、3m位の草等の状況下

のなか、重機を使いながら(会員がオペレーター)60aを復田化し、20日遅れの

田植えを実施(コシヒカリ20a・こしいぶき40aの作付けを行つた)。その後も、

会員全員が会社員・公務員・JA職員・建設業・農機具屋・自営業(兼業農家)

ということで、草刈り作業はAM5時(AM7時)。とくに水田雑草「くさねむ」退治には苦慮しました。

全圃場がひし形、面積もほとんど5a程度でまた、3mの傾斜地ということで決壊を想定し、乾田化できず、バイオンド一数台で刈り取り作業を行い、他農家の「はさ」を借り、はさかけ米にてJAに出荷をしました(反収については大開棚田地区の作況指数90% 大凶作だった)。

収穫後、11月から来期用に向け、愛農会圃場の整備、代掻き作業をし、終了しました。

(門出棚田愛農会 事務局 小林専吉 記)

今後は法人化を目指して  
平成18年度は会員も4名増加し、17名で同面積の作付けを行い、3月28~29日に於いては、熊本県からのボランティア(10名)、門出棚田愛農会員による消雪のための炭散布(写真上)。6月には新潟県

のE C I G O 棚田サポートー60名の応援を頂き、草刈り作業し、各交流を交えながら、この秋の収穫作業準備を現在整えています。

今後は、門出棚田愛農会を法人化し、作業委託、農産物の販売・加工事業を設け、門出集落の担い手の核になり、耕地の保全管理・地域環境保全・地域産物の特產品の開発や都会人と「門出人」の交流による活性化を進めながら、地域の担い手(若手)育成の役割をする門出棚田愛農会にしていきたいと思います。

(あさぎり会 事務局 永井智行 記)



上田・平佐の棚田。写真提供：邑南町産業振興課

# 棚田でがんばる若者たち

島根県浜田市

## た い ま さ ん く ら ぶ 大麻山俱楽部

むろだに  
室谷棚田で活動する大麻山俱楽部  
島根県立大学の学生が中心となって

### 私たちの活動紹介

大麻山俱楽部とは、島根県浜田市三隅町室谷地区に広がる棚田の有効活用を考え、中山間地域活性化に貢献することを目的として設立された任意団体です。室谷地区はかつて4千枚以上の規模を持った全国有数の棚田地帯でしたが、現在は1千枚程度に減少しており、農業就業者の平均年齢も60歳を超える典型的な過疎地域です。大麻山俱楽部ではこの大切な地域資源を、若い大学生の力によって景観保全や地域の活性化に役立てていきたいと考えています。

構成メンバーは、島根県立大学総合政策学部の井上厚史先生、林秀司先生、ゼミ学生（現在4回生2名、3回生14名、2回生30名です）、地域の人々からなり、活動内容は棚田での農作業（米、野菜の無農薬栽培を試みています）を中心に、井上・林両先生のゼミ学生が「広報」「米作り」「畑作」「暮らし」「景観」などの班に分かれ、地域住民との交流を深めながら活動を行っています。

棚田の管理は地元のベテランの農家の方々の指導を受けながら、大学生がほぼ毎週末室谷地区に通い、作業をしています。幸い、室谷地区は大学から車で30分の近いところにあるため、交通の不便さは感じません。

田植えや稲刈りのときは、大学生だけでなく、地域の方々や一般の希望者を募って数十人規模でにぎやかに行っています。当時は協力団体や地元の郷土食研究会の方々から食事や手作りの柏餅をいた

だくなど、様々な人たちと関わりながら協力して作業を行っています。

育てている稻の品種は「亀治」とい

戦前に島根県の奨励品種として栽培され

ていたものを復活させて植えています。

「亀治」は食米としても優れていますが、

大麻山俱楽部では収益の安定化とより多

くの方々に知つていただくために、山口

県のこだわりの酒造会社「澄川酒造」に

お願いして、日本酒（「純米吟醸酒

亀治」）にして販売しています。

さらに、地域の方々との交流を深める

ために、地元の小学生と一緒に遊びなど、

大学で独自の企画を練つたり、地元の祭

事に参加したりしています。2005年

2月には韓国から子供たちを招き、地元

の小学生は石見神樂を、韓国の小学生は

サムルノリという伝統芸能を演じてもら

い、ホームステイも実現させました。今

年度は、県立広島大学の学生を招いて田

植えや民泊を行うなど、活動の幅を広げ

ています。

### 情報発信の大切さ

棚田の景観保存に関わり始めて感じていることは、一人でも多くの人に棚田の良さを感じてもらいたいということです。

棚田の景観保存に関わり始めて感じていることは、一人でも多くの人に棚田の良さを感じてもらいたいということです。

私たちが活動してきた事などを紹介しており、最近ブログも開設しました。印刷物を使った情報発信ではどうしても費用がかかり、また近隣地区にしか発信できないという弱点があるため、全国的に情報を発信するということを考え、学生同士でホームページの管理を行っています。

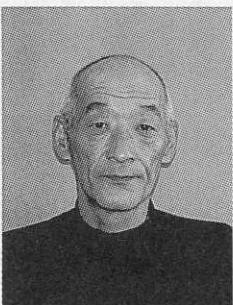
以上のように、私たち大麻山俱楽部では多くの方々の協力を得ながら棚田の活性化に取り組んでいます。学生同士で工夫して知識や経験を伝え合う体制を整えながら、近々NPO化も考えています。これからも、より地域に根付いた細やかな活動を展開していくとともに、その活動を多くの方に知つていただけるようにながんばりたいと思います。



山口県長門市(旧油谷町)

直史 さん 56歳

—今年始動した「東後畠宮農組合」のリーダー的担い手として—



昨年10月営農組合を設立

私たちの東後畑営農組合は、棚田百選に認定された棚田地帯が活動区域です。

山口県長門市の西部、油谷地区にあります。今年はイカの一本釣りが豊漁であったので、例年になくイカ釣りの期間も長く、漁り火がことのほか多く、華やいだシーズンでありました。そのため、カメラマン、観光

客も多く、昨年、東屋、トイレ、駐車場が整備されたので、ゆっくり棚田の魅力を満喫してもらうことができたと思っております。昨年10月より営農組合を設立して、耕作放棄地を借り受けて保全をしていかないと、水利、農道、有害獣と農作業を続ける上で支障が出て、地区内で水田耕作ができなくなるため、中山間直接支払の

さて、営農組合の担い手の内田直史君は56歳です。会社を3年前に退社して家庭に専念して、地区内で一番広い面積の3.9haの耕作と繁殖牛6頭を飼育しているリーダー格の農家です。

協定役員7名でこの構想を練り上げて、地区の人に設立の説明を重ねて、同意をいただき、4月より営農活動を始めました。営農組合員14名で発足して、集落内の耕作放棄地5.2haを借りて、そのうち1.5haにヒノヒカリの植え付けを行いました。ほかの3.7haは保全管理を行うため、草刈りを行いました。一部は牛の飼料に利用しております。

また地区的の担い手農家として、農地の受け皿になつてくれております。また、地区的農家へ営農組合の主旨を説明するなど、営農組合の推進の中核的な役割を果たしてくれたので、地区全体としての同意を得られました。農地の借入に当たつて、不在地主の土地の交渉に下関市、山陽小野田市に出向いて、交渉に当たるなど基礎づくりにも力を發揮しております。

今年より始めた集落営農は、耕作放棄地を水田に復旧して、1.5 haの作付を行いました。関係地権者と水利の調整をして荒おこしから、植え付け、水管理と一緒に農作業の準備と日程の決定を毎週土曜の19時より、自治会の集会所で役員会を開いて協議し、資材の購入、農機具の調整を決めて、植え付けを完了しました。

さて、営農組合の担い手の内田直史君は56歳です。会社を3年前に退社して家庭に専念して、地区内で一番広い面積の3.9haの耕作と繁殖牛6頭を飼育しているリーダー各の農家です。

## 1.5haの耕作放棄地を復田

9月に出穂し、10月の収穫が待ち遠しい毎日です。今年が初めての収穫作業になりますが、周到な事前の作業準備が必要なため、毎週の役員会で打ち合わせをし



(文..大麻山俱楽部 広報..島根県立大學4年 鶴田卓也／総務..島根県立大學4年 江草寛志)

p6上..大麻山俱楽部が活動している棚田。p7上..地元の農家の指導を受けながら、マルチにキュウウリの苗を植えている風景。中..総勢90名で行った今年の田植え。下..地元のどろんこバレー大会に参加したときの様子。

# 鳥取県若桜町

わかさちよう  
ならおとし  
お  
奈羅尾寿夫さん  
54歳

## 標高800mの棚田でオーナー制度にも取り組む

ひょうのせん  
水ノ山の麓、つく米棚田で

つく米棚田は、山間地特有の棚田で、開墾の期限は近世（戦国時代～江戸時代）の頃と推測されています。また、国定公園水ノ山の麓の標高約700～800mに位置し、広葉樹の山々が一帯となつた景観が素晴らしい、四季折々の自然が楽しめます。更に、畦畔の多くは石積みでつくられた美しい棚田であり、付近には希少動植物（ヤマネ等）が見られます。

つく米棚田では若者が中心となり、昔より伝わっている雨乞い踊りとして手笠踊りの保存会があり、町内外のイベントに参加されています。一方で農業従事者の高齢化及び担い手不足により農用地等の維持管理を行う集落の共同作業等は農家の大きな負担となっています。耕作放棄地等の増加により周辺農地への悪影響や景観の悪化、更には、営農意欲の減退が懸念される地域である中でがんばっておられる若手農家（奈羅尾寿夫さん、年齢54歳）の紹介をします。

現在、奈羅尾さんは、春から秋かけては農業経営、冬はわかさ水ノ山スキー場

で旅館を経営されている兼業農家であります。特に農業については、耕作面積約1ha、（経営内容、水稻8400m<sup>2</sup>、山菜530m<sup>2</sup>、マイタケ220m<sup>2</sup>、その他野菜1330m<sup>2</sup>）の経営を行つておられます。

また、平成11年に日本の棚田百選に「つく米棚田」として認定を受けたことをきっかけに「都市との交流をして、元気になるう」と、平成12年より棚田オーナー制度「棚田チファーマーズinつくよね」を集落の若手農家数人と意欲的にこの制度に取り組みました。

この制度は、都市住民が棚田オーナーになつて、棚田で農作業、収穫の喜びを体験しながら、農家との交流などによる第2のふるさとづくりや集落の活性化を図る制度です。農家にとつても、中山間地域の高齢化・過疎化の中、特に農業生産条件のきびしい棚田地域で、多くの人が訪れ、交流ができ、耕作放棄の防止にもつながることから、集落で徹底的な話し合いをし、アイデアを出しながら取り組みました。

この制度については本年も継続されていますが、年々申し込みが減っているのが現状で、これを機会に申し込みがあれば幸いです。

■問い合わせ先・鳥取県八頭郡若桜町つく米203番地 奈羅尾寿夫 TEL0855



## 会員募集中

棚田の保全・中山間地域活性化のための全国組織

### 全国棚田(千枚田)連絡協議会

お申し込み・お問い合わせは協議会事務局

愛知県新城市鳳来総合支所 経済課農政グループ

Tel: 0536-32-1984 FAX: 0536-32-1170  
協議会HP: <http://www.yukidaruma.or.jp/tanada/>

7月26～27日に宮崎県日南市で開かれました。昨年の総会では未定となつておきました第13回以降のサミット開催地につきましては、総会後設置したサミット開催地選定委員会の活動等によりまして、第13回、第14回と既にサミット開催地の請願書が提出されました。10月開催の日南サミット総会に提案いたしました。

また、会員減少の件につきましては、会員を増やし歳入予算を増やすか、歳出経費について削減を図るか、予算上の何らかの対策を立てなければならぬ状況は変りません。昨年に引き続き、未加入関連自治体へのダ

イレクトメール、また合併により新市町となり退会した自治体への再入会の検討依頼等を郵送することにしています。事務局としても努力をして参りますが、会員の皆さまにもご理解いただき、ご支援をお願いいたします。よいアイデア等がありましたら、事務局までご一報ください。

いよいよ10月6～7日宮崎県日南市で行われる第12回全国棚田(千枚田)サミットが間近となりました。会員のみなさん、是非、参加をしてください。

## 事務局

## ニュース

事務局、愛知県新城市からのお知らせのコーナーです

## 新しく会員になったみなさま

<自治体正会員> 熊本県球磨村

新潟県十日町市

<団体会員> 栃木県中山間地域活性化推進協議会

## 編集後記

特集記事、ご協力いただきましたみなさまありがとうございました。さて、台風被害、今年も多いです。みなさんの地域は大丈夫でしたでしょうか。第12回棚田サミットが宮崎県日南市で10月6、7日に開催です。台風被害に負けず、多くの力で棚田保全の気運をますます盛り上げていきたいですね。

石井里津子